

2024年（令和六年） 5月17日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）  
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階  
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

当週(5月9日～15日)の国際石油市場は、ウクライナ・パレスチナの戦況や米国の利下げ観測、OPEC・IEAの需要見通し等が主な変動要因となり、78～9円台で小刻みに変動した。WTI先物は、9日続伸の79.26ドルで始まったが、10日には反落、その後は日替わりで、反発・反落を繰り返し、15日に78.63ドルで終わった。

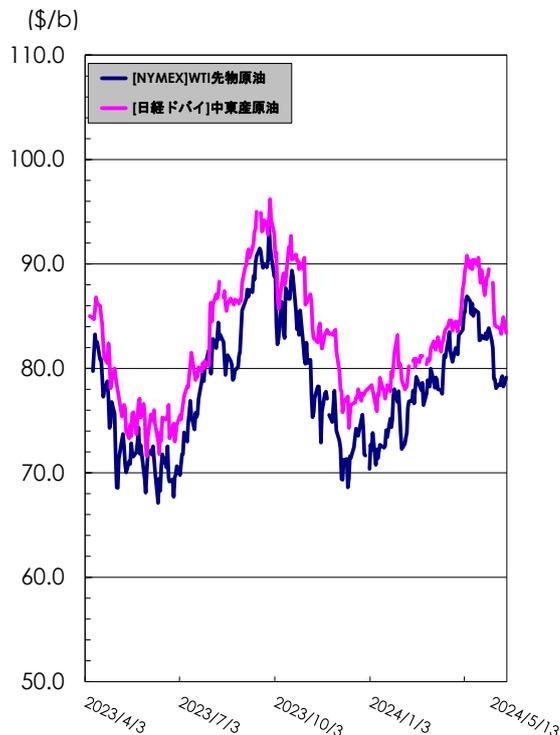
また、中東産パイ原油/東京市場(6月渡し)も、前週(4月25日～5月8日)83.30～89.50ドルの範囲で推移したが、当週は、5月9日84.30ドル、10日84.90ドル、13日83.40ドル、14日84.20ドル、15日83.80ドルと推移した。

対ドル為替レート(TTM)は前週(4月25日～5月8日)154.11～157.97円の範囲で推移したが、当週は、5月9日155.65円、10日155.70円、13日155.98円、14日156.36円、15日156.53円となった。

そのような中で、5月13日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.2円安、軽油も同0.2円安、灯油は横ばい

(18リットルベース)、ガソリンの全国平均価格は174.5円となった。5月16日～22日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は25.1円(補助金がない場合の次週予想価格199.9円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は14.9円)となった。

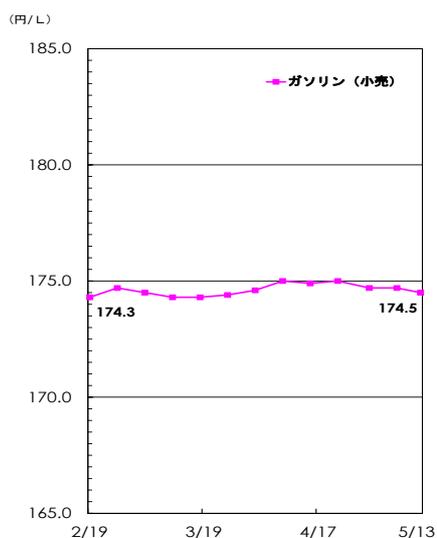
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/5～5/11	2,780 ▲14	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	77.3 ▲0.4	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	5/11	10,473 ▲96	▼ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	5/13	83.40 ▼0.40	▲10.1
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	5/13	79.12 ▲0.64	▲8.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	4月中旬	85.94 ▲1.57	▲2.41
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	81,857 ▲1,889	▲12,409
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	151.43 ▼0.74	▼19.25
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/13	156.98 ▼1.87	▼19.93



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	5/5 ~ 5/11	878 ▼ -37 ▲ -	
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.
	出荷	"	777 ▲ 6 ▼ -	
	輸出	"	52 ▲ 10 ▲ -	
	在庫	5/11	1,795 ▲ 48 ▲ -	
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 5/7 ~ 5/13	83.0 ➡ 0.0 ▲ 10.0	
		(TOCOM/中部) 5/13	80.0 ➡ 0.0 ▲ 6.5	
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 5/13	174.5 ▼ -0.2 ▲ 6.7	

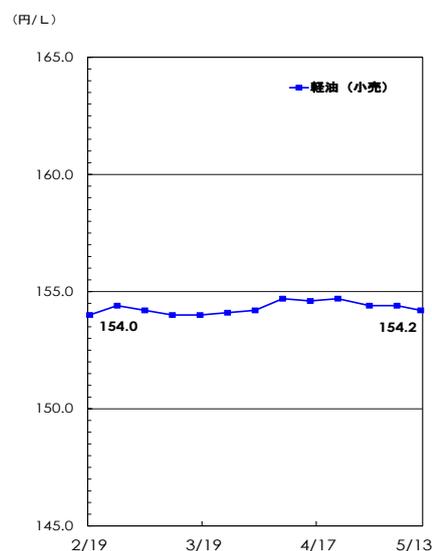
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

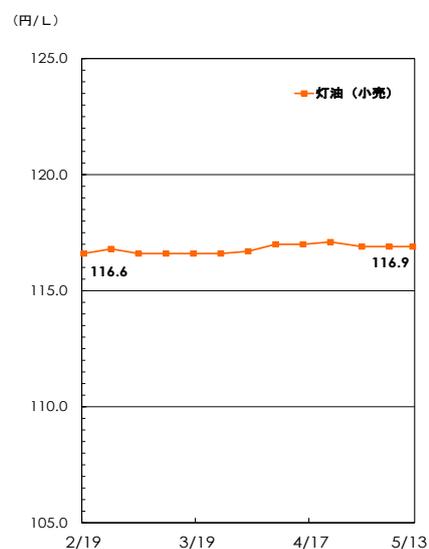
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	5/5 ~ 5/11	704 ▲ 81 ▼ -	
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.
	出荷	"	533 ▲ 97 ▼ -	
	輸出	"	42 ▼ -8 ▼ -	
	在庫	5/11	1,575 ▲ 130 ▲ -	
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 5/7 ~ 5/13	83.1 ▼ -0.3 ▲ 6.5	
		(TOCOM/中部) 5/13	- - -	
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 5/13	154.2 ▼ -0.2 ▲ 6.3	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	5/5 ~ 5/11	159 ▼ -74 ▲ -	
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.
	出荷	"	93 ▼ -36 ▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -55 ➡ -	
	在庫	5/11	1,331 ▲ 65 ▼ -	
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 5/7 ~ 5/13	81.5 ▼ -1.0 ▲ 6.5	
		(TOCOM/中部) 5/13	82.0 ➡ 0.0 ▲ 7.2	
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 5/13	116.9 ➡ 0.0 ▲ 6.1	



■ 関連情報

1 海外/原油 (WTI原油先物市場)

前週(4/25~5/8)のNYMEX・WTI先物市場は78.11~83.85ドルの範囲で推移した。

当週、9日は、中国の4月の原油輸入が前年比増加、前日発表の米国原油在庫が前週比予想以上の減少の発表があり、米中の石油需要増加期待から、続伸した。6月物終値は、前日比0.27ドル高の79.26ドル。

週末10日は、イスラエルのネタニヤフ首相がガザ地区ラファへの攻撃姿勢を崩さない一方で、米連邦準備制度理事会(FRB)幹部は早期利下げに慎重発言があり、利下げ観測は後退し、為替市場ではドル高が進行、原油先物の割高感もあり、3日ぶりに反落した。6月物終値は、同1.00ドル安の78.26ドル。

週明け13日は、中国の4月の消費者物価指数が予想を上回る好調で、全米自動車協会は今月末の連休にドライブを楽しむ人が増加と発表、需要の高まりが期待される一方、ロシアの複数製油所でウクライナによるドローン攻撃があり、さらに、イラク石油相が、減産順守・他の産油国との協調を

発言、供給減少懸念から反発した。6月物終値は、同0.86ドル高の79.12ドル。

14日は、米国の4月の卸売物価指数は予想を上回る好調、利下げ先送り懸念が高まるとともに、OPEC月報は2024年の需要見通しを前年比225万b/d増に据え置いたが、増加期待が大きかったため、反落した。ただ、カナダの森林火災拡大は供給懸念要因となった。6月物終値は、同1.10ドル安の78.02ドル。

15日は、米国の4月の消費者物価指数は3か月ぶりに鈍化、再び早期利下げ観測が高まり、また、この日発表の米国石油在庫報告は原油・ガソリンともに予想を上回る取り崩しとなり、反発した。国際エネルギー機関(IEA)月報の2024年世界石油需要の下方修正(前年比110万b/d増)は、上値を押さえた。6月物終値は、同0.61ドル高の78.63ドル。

2 海外/米国石油市場

5月15日発表の10日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油が前週比250万バレル減と市場予想(50万バレル減)を上回る取り崩しで、ガソリンも同20万バレル減とわずかながら市場予想(横ばい)に反する取り崩しとなった。市場は先行き需要増加を期待している模様。

EIAによると、5月13日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比3.5セント安の1ガロン3.608ドル(149.4円/ℓ)と3週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比4.6セント安の1ガロン3.848ドル(159.4円/ℓ)と5週連続の値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、5月10日時点で、前週比3基減の496基と3週連続の減少であった。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年5月5日~5月11日に休止したトッパー能力は35.4万バレル/日で、前週に対して2.9万バレル/日増加した(全処理能力は323.0万バレル/日)。

原油処理量は278.0万klと、前週に比べ1.4万kl増加。前年に対しては14.6万klの減少。トッパー稼働率は77.3%と前週に対して0.4ポイントの増加、前年に対しては1.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、軽油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/4.1%減、ジェット/26.4%増、灯油/31.9%減、軽油/13.1%増、A重油/22.4%減、C重油/11.4%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比5.4万kl減)。軽油の輸出は4.2万kl(前週比0.8万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べて灯油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比では灯油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は77.7万kl(対前週0.7%増)と2週連続で増加した。ジェット10.2万kl(対前週140.5%増)、灯油9.3万kl(対前週27.4%減)、軽油53.3万kl(対前週22.1%増)、A重油15.1万kl(対前週38.5%増)、C重油11.6万kl(対前週3.2%減)。

(単位:千L)

	今週 (5/5 ~ 5/11)	前週 (4/28 ~ 5/4)	前週比	
ガソリン	777	771	▲ 6	(1%)
ジェット燃料	102	42	▲ 60	(143%)
灯油	93	129	▼ -36	(-28%)
軽油	533	436	▲ 97	(22%)
A重油	151	109	▲ 42	(39%)
C重油	116	120	▼ -4	(-3%)
合計	1,772	1,607	▲ 165	(10%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

## 4 国内/製品在庫量

5月11日時点の在庫はA重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリン、軽油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは179.5万kl、前週差4.8万kl増。前年に対しては11.0万kl多い。

灯油は133.1万kl、前週差6.5万kl増。前年に対しては7.5万kl少ない。

軽油は157.5万kl、前週差13.0万kl増。前年に対しては4.6万kl多い。

A重油は72.2万kl、前週差1.7万kl減。前年に対しては0.8万kl多い。

C重油は182.0万kl、前週差3.8万kl増。前年に対しては13.4万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (5/11)	前週 (5/4)	前週比	
ガソリン	1,795	1,747	▲ 48	(3%)
ジェット燃料	787	773	▲ 14	(2%)
灯油	1,331	1,266	▲ 65	(5%)
軽油	1,575	1,445	▲ 130	(9%)
A重油	722	739	▼ -17	(-2%)
C重油	1,820	1,782	▲ 38	(2%)
合計	8,030	7,752	▲ 278	(3.6%)

## 5 国内/元売会社製品卸価格

5月7日～13日のドル建て中東原油価格は値下がりし、為替レートは円高で、円建て輸入原油価格は値下がった。元売会社の卸価格建値は値下げになったものと見られる。上記コスト下げに、補助金減額分を考慮すると、5/16～5/22の実質卸価格は値上げとなった模様。

## 6 国内/製品小売価格

5月13日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円値下がりの174.5円、軽油も同0.2円安の154.2円、灯油は18%ベースで横ばいの2,105円(1%ベースでも横ばいの116.9円)。ガソリンは2週ぶりの値下がり、軽油も2週ぶりの値下がり、灯油は2週ぶりに値上がり止まった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がり16県、横ばいは4県、値下がり27都道府県だった。全国最安値は岩手県の167.9円、その次は宮城県の168.6円であった。他方、最高値は長野県の184.4円。最も値上がりしたのは長崎県(同1.1円高)、最も値下がりしたのは石川県(同1.4円安)だった。

次回調査時(5/20)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がり予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (5/13)	前週 (5/7)	前週比	直近高値
レギュラー	174.5	174.7	▼ -0.2	23/9/4 186.5
灯油	116.9	116.9	→ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	154.2	154.4	▼ -0.2	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。  
次回 (2024第7号) の公表は、5/24 (金) 14:00 です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

#### ④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。